

札幌駅

北口駅前広場の整備も終わり、交通の要として毎日たくさんの人たちに利用されている札幌駅を紹介します。

最初の札幌駅は、幌内鉄道の間駅として開拓使が明治十三年（一八八〇年）に小樽の手宮と札幌を開通させた時に設置されました。

この駅は、木造平屋建てで、荷物庫を合わせても約百三十平方メートルと小さな建物。開拓途中の仮の停車場といったもので、写真なども残されていません。

十五年（一八八二年）には木造平屋建て、白壁の洋風建築の二代目の駅が建てられ、この年に札幌―幌内間の線路も完成しました。駅舎の北側半分は吹き抜けで汽車が通り抜けることができるようになっていて、雨の日でもぬれずに乗降できました。この鉄道の開通のおかげで物資の輸送費が安くなり、物価がかなり下がったという話です。

三代目の駅は、四十年（一九〇七年）十月に駅舎



ルネッサンス式の3代目の駅
(札幌市教育委員会文化資料室所蔵絵はがき)

の西側が焼失したため翌年に建てられた、木造二階建てルネッサンス式のもので、この駅舎を若干縮小して復元したものが現在、厚別区にある開拓の村

のゲートとして利用されています。

四代目の駅舎は、鉄筋コンクリート造り、地下二階地上四階建てで、昭和三十二年に完成しました。



記憶に新しい4代目の駅
(札幌市教育委員会文化資料室所蔵絵はがき)

この駅の特徴は、地下の部分に二十七年にできたステーションデパートやニュース劇場などの施設があること、貨物の取り扱いをせず、旅客・荷物の専用としたことです。

そして五代目の駅は、札幌の街を南北に分断していた鉄道を高架にしたのに伴い高架駅として六十三年に旧駅舎の北側で開業しました。一階とホームの部分で約一万五千平方メートルと最初の駅舎の百倍以上です。ホーム全体が屋根で覆われ、改札内には航空機の搭乗手続きのコーナーもあります。

一日当たりの乗客数は、明治十年代に数十人だったものが、明治の終わりにには千人を超え、昭和十七年には一万人、平成十六年では十六万人を超えています。

平成十年三月には、札幌駅北口広場が完成し、十一月には自動改札機の運用も始まりました。さらに、十五年三月には、札幌の表玄関としてふさわしい駅前広場としてJRタワーシエタールが開業しました。

(平成十年六月号・第四十六回)